

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標・実績

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
14383真鶴町	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	共働き世帯の増加により、放課後の子どもの居場所づくりが必須となっている。放課後子ども教室事業を展開しているが、内容のマンネリ化により、参加率が低下しているため、魅力的な居場所を提供することが望ましい。	地域の指導者を招き、読み聞かせ等のプログラムを実施している。各学期末にはおたのしみ会を実施し、参加率向上の取組みを実施している。	コロナ禍の影響もあり、昨年度までは室内でのプログラムが中心であったが、より多様なメニューを提供するため、屋外でのメニューを取り入れる。（軽スポーツ等）	魅力的な居場所づくりを行い、楽しい場であることを認識してもらう。	登録児童の参加率	33	%	35	43	内容のマンネリ化はあるが、気に入ったプログラムがある児童もいるため、これまでの活動を残しながらも、学期ごとに、やコロナ禍で中止となっていた調理、体育館での運動会、また、海の教室など地域の特色を活かしたプログラムを増やした。それにより、各学期新鮮な体験ができたため、登録している児童の参加率を下げることなく活動を継続できた。
14383真鶴町	②学校と地域の課題	02 青少年の健全育成	共働き家庭が増え、放課後児童クラブの入所定員が超過する中、受け入れ確保が急務となっている。町として、放課後の居場所を確保する体制を整備し、取り残される家庭をなくしていかなければならない。	サポーターを雇用し、町民センターの部屋を使用して放課後及び学校が休校となる長期休みにおけるこどもの居場所を確保する。	町広報や直接の声掛けでサポーターを確保し、また、必要経費等を算出することで予算を確保して居場所づくりの体制を整えた。	放課後の居場所づくりを実施し、取り残される家庭がないように整備する。	小学生の利用者数	2	人	5	60	試行的な実施にもかかわらず、非常に多くの児童の登録及び利用があった。特に長期休暇期間やイベントを実施した期間に利用者が多かった。利用者が増える見守りの体制も強化していかなければならないため、サポーターの2名配置が必須となったが、シフトの関係上2名体制が組めない日が出てきたことが課題となった。次年度に向けて、場所と人員配置を安定させ、利用者の安全面の確保に努めていく。
14383真鶴町	②学校と地域の課題	02 青少年の健全育成	家庭学習の習慣のない児童が増えてきていることから、土曜日に地域の教育力を駆使して学校以外での学習の場を提供し、学習の面白さを感じてもらう必要がある。	町内の社会教育関係団体とも連携して、学習支援員を確保し、色々な視点から学習に取り組めるような体制を構築する。また、外国人留学生を招き、英語学習にも注力する。	現役の高校生や大学生をスタッフに迎え入れ、多世代の方々や学習できる環境を整えるとともに、外国人留学生との交流も実施した。	登録児童を対象となる小学6年生の50%とする。	小学6年生全児童に対する登録児童の割合	37	%	50	44	若い世代のスタッフを増やし、子どもたちが親しみやすい環境を整えたことにより、前年度より登録率は向上した。各家庭に当該事業は学習力の向上を図るものではなく、学習の楽しさを感じてもらう事業であることの理解を広げる必要がある。

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。